

第99号

研究天報

あいさつ

三好教育研究所 所長 藤本 一夫

委嘱研究員 研究

■ 未来へつなぐ幼児教育の創造

「身近な環境との関わりを通して、豊かな感性や表現する力を養う」

～友達と一緒に工夫して創造的な活動を生み出していくための援助の在り方～

白地幼稚園 山本 眞由美

■ 我が町の未来を担う人作り推進事業

～町の魅力を発見し、発信していこうする子どもの育成～

昼間小学校 曾我部 悦嗣

■ 特別支援学級における国語科授業の取り組み

～ 聞く力を養うための素地を育む ～

王地小学校 教諭 大西 利江子

■ 健康な生活態度の育成

～学級活動「てをぴかぴかにしよう」の学習を通して～

白地小学校 教諭 中川 法子

■ 主体的に活動し、表現できる児童の育成をめざして

～ こども園との交流活動を通して～

櫛生小学校 教諭 岩崎 順子

■ 将来の進路と学習活動の意義とを結びつけ、自己と社会をつなぎながら、力強く未来を拓く力を育むキャリア教育

～将来をみすえた持続可能な学習を目指した「学習のしおり」作り～

三加茂中学校 教諭 天竹 雄紀

■ 「従事する」から「つかさどる」へ

～学校事務グループでの取り組みと「つかさどる」ための挑戦～

井川中学校 主事 三好佐知

三好教育研究所
平成30年度

あ い さ つ

三好教育研究所では、平成29年度から5年間「変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成」を研究主題に、各学校のご協力をいただきながら、研究・研修活動を行っています。

その研究の集大成と言える本年度の研究発表会は、台風20号の接近により、やむなく中止することになりました。研究発表校の昼間小学校を始め、計画準備等でお世話になった関係機関の方々や忙しいスケジュールの合間を縫ってご講演をしてくださる予定だった妹尾先生には、大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りて、お詫び申し上げます。

さて、三好教育研究所は、歴史をひもとけば、昭和42年に、三好郡教育研究所として設立し、以来51年間三好郡市の教育発展のために、三好教育会や各学校と共に研究・研修活動に取り組んでまいりました。今年度も、若手教員の育成や中堅教員・管理職等への研修、小学校情報部会との連携によるICT教育の推進などを行ってまいりました。さらに、この研究所報（第99号）では、7人の委嘱研究員の先生方に、研究主題に沿った日頃の実践活動の研究成果をまとめていただき、報告していただきました。本当にお世話になりました。三好地区の学校・園の先生方も、この研究成果をご覧いただき、今後の教育実践の参考にしていただければ幸いです。

今、学校現場は、グローバル化、情報化、少子高齢化などの急激な社会の変化に伴い、これらの諸課題への対応がせまられています。このような現状を踏まえ、文科省も、求められる教師像として「社会からの尊敬・信頼を受ける教員、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員が必要である」と述べています。教員に求められる要求は、ますます高度化、複雑化する中で、昨今は「教職員の働き方改革」も同時に叫ばれています。今こそ、管理職のマネジメント能力や人材育成力が試され、教職員が自ら意識改革しないと、時代の要請に押しつぶされていくのかもしれない。そのような中で、三好研究所の果たす役割も、日々、変革して行く必要があります。今後ともグローバルな教育の視点を常に念頭に置きながら、三好地区の児童・生徒の実態や地域の実情に即した研究・研修活動に努めてまいりたいと思っております。

最後になりましたが、これまで、当研究所の諸事業に対しまして、関係者の皆様にご指導ご協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げますと共に、今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻をいただけますようよろしくお願いいたします。

平成31年3月

三好研究所所長 藤本 一夫

目 次

あいさつ

三好教育研究所 所長 藤本 一夫

—— 委嘱研究員研究 ——

- 未来へつなぐ幼児教育の創造…………… 1
「身近な環境との関わりを通して、豊かな感性や表現する力を養う」
～友達と一緒に工夫して創造的な活動を生み出していくための援助の在り方～
白地幼稚園 山本 真由美

- 我が町の未来を担う人作り推進事業…………… 5
～町の魅力を発見し、発信していこうする子どもの育成～
昼間小学校 曾我部 悦嗣

- 特別支援学級における国語科授業の取り組み…………… 8
～ 聞く力を養うための素地を育む ～
王地小学校 教諭 大西 利江子

- 健康な生活態度の育成…………… 11
～学級活動「てをぴかぴかにしよう」の学習を通して～
白地小学校 教諭 中川 法子

- 主体的に活動し、表現できる児童の育成をめざして…………… 14
～ こども園との交流活動を通して～
榎生小学校 教諭 岩崎 順子

- 将来の進路と学習活動の意義とを結びつけ、自己と社会をつなぎながら、力強く未来を拓く
力を育むキャリア教育…………… 17
～将来をみすえた持続可能な学習を目指した「学習のしおり」作り～
三加茂中学校 教諭 天竹 雄紀

- 「従事する」から「つかさどる」へ…………… 21
～学校事務グループでの取り組みと「つかさどる」ための挑戦～
井川中学校 主事 三好佐知

- 平成30年度 三好教育研究所事業報告…………… 24

- 歴代委嘱研究員一覧（平成元年～）…………… 26

研究主題

未来へつなぐ幼児教育の創造

「身近な環境との関わりを通して、豊かな感性や表現する力を養う」

～友達と一緒に工夫して創造的な活動を生み出していくための援助の在り方～

白地幼稚園 山本 眞由美

1 はじめに

近年幼児を取り巻く環境には、様々な変化が見られる。例えば社会の情報化や少子化、都市化などの変化に伴い、家庭や地域で学び合うことが少なくなっている。また、幼児期からテレビ・ゲーム・DVDなどの受け身の遊びが多くなり、幼児の生活の中で間接的体験が増え、自然に触れて遊ぶ直接体験が減ってきている。

幼稚園教育要領では、「豊かな感性と表現とは、生活の中で心を動かす出来事に触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲を持つようになる」と述べている。

本園の幼児の中には、初めてのことには不安を感じたり、自分で物事を考えたり、イメージを膨らませたりすることが苦手な子もいる。そこで幼児が自分たちの遊びを見つけ、取り組む中で夢中になって遊び、考え、工夫しながら、自分の思いや願いを実現していくために、幼児一人一人を見つめ、友達とのつながりを感じられるための援助の在り方について考えていきたい。

2 研究の視点

- ・身近な環境に触れ、感じたり考えたりしながら遊ぶ中で、豊かな感性を育むための教師の援助の在り方を考える。
- ・自分で表現する喜びを味わい、友達と一緒に表現する過程を楽しむようになるための環境構成の在り方を考える。

3 園の実態

- ・2年混合保育 5歳児男児2名 4歳児男児・4名女児3名 計9名
- ・新入園児7名のうち、2名は集団生活の経験がある。
- ・年少児は幼稚園の生活にも慣れてきて思い思いの遊びを見つけられるようになってきた。しかし、中には友達との関わりが十分でない子もいて、年長児の遊びを模倣しながら、遊ぶ姿も見られるようになった。
- ・年長児は、昨年度経験した遊びや自分たちの考えを出し合いながら工夫して遊ぶようになってきた。

4 実践事例

<事例1> 「ここはジュース屋さんです」 5月上旬

年少児のC児たちが袋の中にパンジーの花びらと水を入れ、揉んで色水を作って遊んでいる。C児「先生これ見て」と、出来た色水を持ってくる。「きれいな色がでたね。」と保育者が言うと、N児が「ぼくもしたい…」と、花びらを花壇から取って来て、作りはじめた。S児「ぼくの青色，すごいきれいだろ。」と作った色水をペットボトルに入れて見せに来る。「ほんと



やね。」と保育者。M児は葉っぱで色を出していたが「色が出ん…」と、保育者に言う。「どしてだろか。お水ようけ入れすぎたんかな。」と言うと、M児は「じゃあ、葉っぱもようけ入れなできんのかな。」と言いながら葉っぱを取りに行く。近くで年長児のI児がすり鉢とすりこぎを使って色水を作っているのを見て、保育者が「Mさん、Iさんみたいにしてみる？」と言う。M児は取って来たすり鉢に葉っぱと水を入れてすり潰そうとするが、なかなか上手くできない。I児が「Mさん、お水はちょっとずつ入れんかったらこ



ぼれるよ。こうしたらええんよ。」とM児に自分が見せる。M児はI児の様子を真似ながら作り始める。

保育者が「みんないろんな色ができとるね。おいしそう。」と言うと、N児が「じゃあ、これはぶどうジュースじゃ。」と自分の作った紫色の色水を見ながら言う。薄緑色の色水ができたM児は「これはお茶じゃ。」土を混ぜていたH児は「コーヒーもできたよ。」と言う。「なんだかのどがかわいたな～」と保育者が言うと、「ちょっと待ってください。」とみんなで相談をしはじめる。しばらくして「ここへお座りください。」と近くにあった机と椅子の所へ案内してくれた。「お待たせしました。ここはジュース屋さんです。」と言う。「ありがとうございます。どんなジュースがあるんですか？」と保育者が聞くと、「お茶にジュース，コーヒーもありますよ。」とN児。「では、さっき作っていたおいしそうなぶどうジュースをください。」「ちょっと待ってください。」とN児が紫色をしたペットボトルを持ってきて、「どうぞ。ぶどうジュースです。」と言いながら渡す。

「いらっしやい。いらっしやい。ジュースはいかがですか。おいしいジュースですよ。」とN児が言うのを聞いて、S児が「ジュースください。」「はい。たくさんありますよ。」と言葉のやりとりをしながらジュースやさんごっこをして遊んだ。その後、砂で作ったたこ焼きやピザも加わり、お店ごっこが続いた。



<省察>

・なかなかうまく色が出ないM児や他の子ども達も、友達がやっているのを見たり、教えてもらったりしながら、水を入れすぎると色が出にくくなったり、薄くなるのがわかった。

また、花びらの色、揉み方、すり鉢の使い方でも、色の濃淡の違いもわかってきたように思う。しかし、M児が色が出ないと言ってきた時、ただお水をたくさん入れすぎたことを言うのではなく、もう少し話を聞き、「どうして色が出ないのか」を一緒に考えた方がよかったのではないだろうか。そうすることでM児は、色が出ない理由について、十分に納得することができたのではないかと思った。

・保育者は子どもたちが色水遊びをしている姿を見て、友達と一緒に楽しんで欲しいと思い「おいしそう」とつぶやいた。子どもたちはその言葉をきっかけに色水遊びから、ジュース屋さん遊びが広がっていった。

・身近な植物に興味をもち、自分からやってみようとする取り組みで、遊びが広がり、子どもたちの会話も増えて、楽しくごっこ遊びをする姿も見られた。しかし、机や椅子の場所を変えたり、パラソルなどを出していればより遊びが発展していったのではないだろうか。

<事例2> 「なあなあ、宇宙船作ろう。」 7月上旬

七夕のお話を聞いた子どもたち。「天の川はどこにあるん?」「どんな川?」ということで図鑑で調べてみることにした。天の川は、たくさんの星が集まって出来ていて、広い宇宙にあることがわかった。それから、宇宙に興味を持ちはじめたO児。

リズム室で、積み木を持ってきて、年長のO児が「なあなあ、宇宙船作ろう。」と言うと、「うん。作ろう。」とI児。そこへT児とK児もきて、宇宙船づくりがはじまった。「ぼくのはポケモン号。」とそれぞれが自分の好きな名前を付けて遊んでいる姿が見られた。「わあ、カッコいい!みんなで乗れたらええなあ。」と、それぞれ作っていたのを見ながら保育者が言う



と、I児が「無理。せまい…」それを聞いたO児が「じゃあ合体しよう。」と言ったことで、O児とI児は一緒に作ることにした。O児「ここは運転席にしよう。」と車の座席のように背もたれを作っている。「この後ろがみんなが座るところにしよう。」とI児が長い積み木を並べている。そばでそれぞれ自分の宇宙船を作っていたT児とK児は、O児とI児の作っているのが気になりだしたのか側に来て見ている。保育者が「Kさん、Tさん一緒にしたいん?」と聞くと「うん。」とうなずいたので、「KさんとTさんも一緒に作りたいみたいだよ。」と2人に声をかけた。O児とI児が「じゃあ一緒に合体しよう。」と言う。保育者が「第2弾の合体のはじまりやね。」と言うと、「うん。先生も手伝って。」とI児。K児とT児が「なあなあ、これどこに置こうか?」と積み木を持ってくる。「ここに置いて。」



「ここへは三角の積み木置いたら…」 「そこは違う。」 と話し合いながらしている。「入れて。」 と、興味を持ちはじめた S 児・ C 児・ H 児・ R 児・ N 児もやってきて、全員で作ることになる。自分の座る所を作ったり、寝る所やトイレを作ったりして完成した。

I 児が「宇宙船の完成で一す。みなさんお乗りくださーい。」と声をかける。「はい。乗ります。」と保育者も乗り込んだ。O 児が「シートベルトをしてください。出発しまーす。」と言う。「どこへ行くのですか？」と保育者がたずねると、「天の川です。天の川に行きまーす。」と勢いよく声をかけて、出発した。



<省察>

- ・宇宙船がどのようなものか知らない子や、それぞれのイメージを持っていたので、もっとイメージが共有できるような手立てが必要だった。一緒に作りはじめた時に宇宙船について図鑑や写真を見ていたら、子どもたちはもっとイメージが膨らんだのではないだろうか。
- ・年長児の2人は、自分の考えを伝え合いながら宇宙船づくりを協力して進めていた。その様子を見ていた年少児の内面を保育者が理解し、年長児に思いを伝えることによって一緒に遊ぶきっかけになった。
- ・今回は大型積み木だけの宇宙船づくりとなったが、子どもたちと一緒に話し合いながら他の素材や材料の用意が出来ていたら、子どもたちのイメージももっと広げられたのではないだろうか。

5 おわりに

幼児一人一人を見つめ、友だちとのつながりを感じられる援助の在り方を考え、取り組んできた。教師の言葉掛けや関わり方ひとつで、幼児はイメージを共有したり、遊びがより広がったりして、友達と一緒に遊ぶ過程を楽しむようになる。

教師は日々、幼児一人一人の興味や個性の把握に努めながら、幼児の創造性や意欲をかきたてるような援助をしていくことを大切に、幼児の周りの「人」「もの」「こと」を組み合わせたりつなげたりすることで、幼児の成長を促し、見守っていきたい。

これからも、幼児が様々な経験をし、身近なものに触れる機会や環境づくりに努めていき、教師自身小さな事象にも心を動かしたり、考えたりして豊かな感性を磨いていくことも心がけていきたい。

我が町の未来を担う人作り推進事業 ～町の魅力を発見し、発信していこうする子どもの育成～

昼間小学校 曾我部 悦嗣

1 はじめに

本学級の児童の多くは、明るく活動的でどの教科においても意欲的に取り組むことができている。授業中は、仲間のことを思いやり話し合ったり教え合ったりして、お互いの力を高め合うことができている。

国語科の学習においては、漢字の学習や語彙を増やす学習に意欲的で、自分の分からない言葉や漢字は辞書を用いて調べ、少しでも身につくように言葉を意識しながら学習している。一方、文章を書くことに苦手意識を持っており、なかなか鉛筆が進まない児童や自分の思いついたまま文字を並べて独りよがりの文章になり、相手を意識した文章を書くのが苦手な児童も少なくない。

また、子どもたちに「東みよし町は豊かな町であると思うか」との質問に、21名の児童が「はい」と答えた。理由として『たくさんの自然があり景色がきれい。』『近所の人や周りの人たちが優しく助け合っている。』『四国の真ん中でいろんな所に行ける。』など自分たちが住んでいる町を思う気持ちは自然と育っている。しかし、「将来、この町に住み続けたいか」という質問には、4名のみが「はい」と答え、21名が「いいえ」であった。子どもたちの中には、今の生活は楽しく豊かであるが、都会へのあこがれや流行を追い求める気持ちが強いことが分かった。

2 研究の目的

これまでの国語の学習では、意見と事実に注意して筆者の考えを読み取って自分の考えを持ったり、読み手を説得するための工夫を読み取ったりする学習をしてきている。しかし、図や写真を使って自分の考えを表現する力は充分育っていない。そこで、本研究では、我が町プロジェクトを通して、町の魅力をPRするパンフレット作りをする中で、資料を効果的に活用して表現する力や、自分たちが取材してきた情報を、目的に応じて活用する力を育成することに有効的であると考えた。

3 研究の方法

(1) 学習課題

我が町の未来を担う人作り推進事業

子どもたちが学校 ICT 環境を活用して、地域資源の情報発信を行い、町の活性化を図るとともに、郷土学習により町の未来のための人材育成を行う事業である。「この町を知らない人たちに魅力を伝え、たくさんの人に来てもらえるように紹介しよう」という課題を設定し、伝える相手や目的を意識させた。

(2) 題材選び

本校の校区は、休校している山間部を含めて非常に広く、子どもたち自身が知らない地域も多い。また、自分たちが知っている場所や地域でも実際に知らないことも多い。そこで、もう一度地域を見直し、自分たちが取り上げたい場所を書き並べた。食べ物や場所、歴史や伝統など様々な視点を与えることで、子どもたち自身が地域のことを見直すきっかけとなった。また、県外から移住してきた「地域おこし協力隊」の方に来ていただいて話しをしていただいた。東京で生まれ育った方から映るこの町のよさを聞き、自分の町には東京より優る魅力がたくさんあることに気付き、我が町に自信を持つことができた。

今回の題材については、以下の場所を本学級では取り上げた。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ○阿讃サーキット（サーキット場） | ○SA里TO（食パン専門店） |
| ○二本栗キャンプ場（東山のキャンプ場） | ○メロン農家（近くの農家） |
| ○番匠中山（宮大工） | ○ポコ・ア・ポコ（アイスクリーム屋） |

(3) タブレットを活用する

写真を活用することにより、文章の段落を意識させることができる。また、相手に伝えたいことの情報を取捨選択させるためにとても有効的である。今回はデジタルカメラではなくタブレットを使い、写真や動画を録画した。デジタルカメラはコンパクトで使い勝手がいい。子どもたちは、これまでの学習や生活の中で頻繁に使ってきているので素早く使うことができる。しかし、タブレットを使うことにより、大きな画面で写真を確認することができ、その場でグループの友達同士で話し合うことができた。また、魅力のある写真を撮るために、撮りたい物の中心をどこにするのか、見せたい物をどう撮るのかなどグループで話し合いながら進めることができた。



また、インタビューを動画で撮ることによって、話している内容を正確に記録し発信することができた。撮った写真や動画は、クラウドにアップしどの端末からも見られるようにしたため、編集をする際に子どもたち同士での話し合いがスムーズにできた。

(4) 取材

自分たちが選んだ魅力的な物について取材をした。取材に行くにあたり、それぞれのグループで準備をした。まず、自分たちが電話番号を調べ、電話をかけて取材の許可を取ることから始めた。電話のかけ方やメモの取り方、取材に行く日時などを教室で練習した。取材をお願いする相手に対して、不快な思いをさせないように配慮して話しをしたり、敬語をきちんと使ったりして国語科で学習してきたことを生かした学習となった。次に、質問事項を各グループで考えさせた。質問を明確にしておくことで、見学したときに重点的に見てくる視点を持たせることができる。また、魅力のある写真を撮るための道標となるため1度の取材

でたくさんの情報を得ることができた。取材の中で話をしてくれる方々の熱意や思いを実際に聞くことでパンフレット作りへの意欲は更に高まった。



(5) パンフレット作り

取材してきたことを元にパンフレット作りをした。グループで同じ記事にならないように、割り振りを考えさせた。人物のこと、建物のこと、自然のことなどの題材を明確にすることで、取材した内容を取捨選択することができた。また、掲載する写真を3枚とすることで段落を構成する有効な手段となった。取材をすると、相手の方が話した内容ばかりを並べてしまいがちだが、写真を効果的に使うことによって、書きたい内容を焦点化し、知らない人に伝えるために見たり触ったり体験したことを詳しく入れて紹介することができた。また、作文や文章を書くことが苦手な児童も、知らない相手に伝えるために写真をじっくり見て魅力を伝えることができた。写真と文章を入れてページを完成させた。できた物をグループで持ち寄り、より魅力的に見えるように、写真の大きさやキャッチコピーを構成させた。



4 結果と考察

子どもたちはしっかりとめあてを持って意欲的に学習することができた。様々な人との出会いや魅力に触れ、自分のふるさとに自信を持つことができた。将来、この町で生きていこうとする子どもが6人に増えたが、都会にあこがれを持ったり夢を叶えるためにこの地域を離れると答える児童が多かった。しかし、自分がこれまで知らなかったことがたくさんあることに気づき、もっと町を見てみたいという意欲が高まった。また、文章で伝えるのが苦手な児童にとって、パンフレット作りは大変だったと感じたところもあったが、最後まで意欲的に学習することができ達成感を覚え、仲間意識も強まったようだ。仕上がった作品を友達に見てもらい、認めてもらうことができた事でも自信につながった。

5 おわりに

子どもたちは町の魅力を再発見することができた。今後は、各学校で町の魅力を伝え合う発表会に参加する。文字だけでなく自分たちの言葉で魅力を伝えていくためにどうすればいいのかを考えていき、将来どの地域で生活するとしても、ふるさとの良さをたくさんの人に伝えることができる人間になることが、町の活性化につながると考える。

特別支援学級における国語科授業の取り組み

～ 聞く力を養うための素地を育む ～

王地小学校 教諭 大西 利江子

1 はじめに

本校は、各学年 5～13 名の単学級で全校児童は 59 名という小規模校である。その中で、特別支援学級に 7 名が在籍し、また、交流学級の中にも支援を必要としている児童も多くおり、支援を要する児童の割合は全体の 28% となっている。そのため、本校の児童・教職員の特別支援に対する理解や意識がとても高いと感じている。

さて、本学級には、1～6 学年の 5 名が在籍している。どの児童も明るく素直で、交流学級の児童とも仲良く過ごすことができている。しかし、1・2 年生の 3 人は、交流学級での授業の中で、一斉指示が通らず、理解できていない場面をよく目にする。支援学級では視覚的にサポートしながら説明することが多いが、日常生活では、耳での情報で判断し、行動することがよく求められる。今後、一人でもきちんと情報を聞き取り行動できるよう「聞く力」をつけていきたいと考えた。

2 児童の実態と課題

当初、「聞くトレーニング」を継続的に行うことで「聞く力」が徐々についていく、と考えていた。毎授業のはじめに、言語聴覚士も使用している「きくきくドリル」を使い、聞くトレーニングを行った。しかし、1 学期を通してトレーニングを行うことで、3 児とも、聞くこと、また、聞いて行動に移すことへの課題があることが徐々に明確になってきた。

	A 児	B 児	C 児
実態	<ul style="list-style-type: none"> ●生活に身近な音の聞き分けはできている。 ●1 文 3 語までの文章の繰り返しは言えるが、4 語になると難しい。 ●「にわとりから赤ちゃんが生まれた」など、聞いた後、文章のどこが変か答えるものは、どこがおかしいかを説明することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●簡単な文章のどこが変か答えるものや、音の順番などはよくできており、耳からの情報はしっかり入るし、きちんと聞くことができている。 ●聞きながら指示通りに鉛筆を動かしていくものは非常に苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な音の聞き分けや音の数、聞きながら指示通りに鉛筆を動かすものは問題なくできている。 ●長文をメモせず記憶しておき、その後の質問に答えるものはとても苦手である。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○短期記憶が続きにくい。 ○語彙が少ない。 ○主語がねじれやすく、文章の中で「だれが」「何をした」をきちんと認識できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字をきちんと覚えていないことや上下左右の認識もまだ完全でないため、「聞きながら」の作業が遅く、次の聞き取りに間に合わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短期記憶が続きにくい。 ○語彙が少ないわけではないが、語彙の活用ができていない。 ○想像力が乏しい。

3 実践例と結果

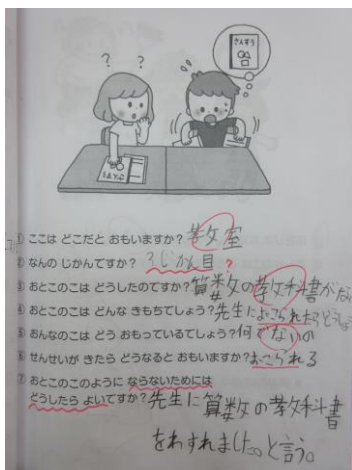
それぞれの課題が見えてきたことで、2 学期から、これまでの「聞く」トレーニングに加え、課題に応じたトレーニングを取り入れた。

(1) 「聞く」トレーニングをより特性に合わせる

A児には、「ぼくは、うどんを食べる。」「ぼくに、うどんを食べる。」など簡単な3語文を聞かせ、正しい方をリピートするトレーニングを始めた。それとともに、3児とも使用する教材を、ワークシートや絵など視覚的なサポートを使い、教師が口頭で言うタイプのものに切り替えた。B・C児に関しては、ワーキングメモリーを少しでも伸ばせるように、1回目はワークシートを見ずに聞き、2回目からワークシートを見ながら回答するようにしている。

(2) 様子を考える

絵から様子を考えたり、文章を考えたりするトレーニングや5枚の絵を並びかえて物語を作り、それをストーリー立てて話す、というトレーニングを取り入れた。



予想通り、「様子を考える」はA児・C児が苦手であった。算数の教科書が見当たらず、困っている男の子の絵に対しての「次は何の時間ですか」という問いに、「3時間目かな。2時間目かな。難しい。」と、2児とも「時間目」で答えようとしていた。A児に「何の教科書を探しているかな。」と聞くと、「算数の教科書。」と返ってくる。「では、何の時間だろう。」と言うと、「3時間目かな。」とまた算数とは切り離して考えようとする。「なぜ、3時間目なの。」と聞くと、「算数は、3時間目が多いから。」と、いつの間にか話の主人公を自分に置き換えていることが分かった。

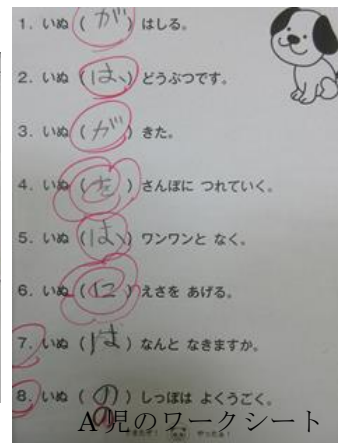
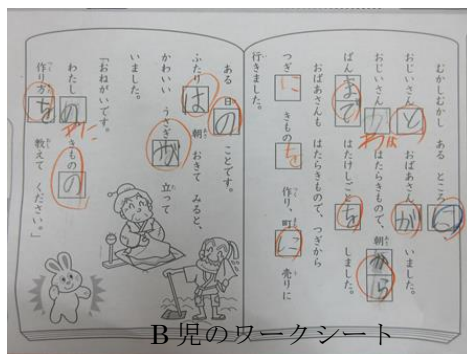


また、絵を並びかえてお話を作るトレーニングは、B・C児ともに好きである。特に、音読が得意なC児は自分が作った物語を感情こめて話すことができている。しかし、ここでも、それぞれの特性が見えてくる。B児は、話の途中で絵の順番が合っていないことに気づくと、絵を入れ替えることができる。C児はおかしいと思っても、絵を入れ替えずに、話をなんとか絵に合わせようとし、つじつまの合わないストーリーになってしまうこともある。その都度、「その思い込みがあるから、答えが間違っしまいもったいない」と言うことを伝え、思い込みでの行動を自制できるように努めている。

(3) 助詞を正しく使う

よく耳にする昔話の助詞を入れさせても、悩む姿が見られるが、答えを言うと、「あぁ！」と言う声が漏れる。

A児も、助詞トレーニングの成果が表れており、徐々に分かりやすい文を話すことができる。



(4) 人に伝える

A・B・C児3人が重なる時間が1週間に3時間ほどある。ただ聞くだけでなく、「自分が聞いたことを人に伝える」という目的のもと、教員2名を加え5人での伝言ゲームを試みた。9月末に、私からA児に「もうすぐ9月が終わります。次は10月ですね。」と伝えたが、A児は、「今は4月です。楽しいです。」と次の子に伝えていた。また、「カレーライス」からスタートしても、3人が伝言した後は「焼きそば」に変わっていたこともあった。この3児で伝言ゲームをすることはまだ難しい、と感じ、交流学級担任からの伝言や私から交流学級担任への伝言を積極的にするようにした。次の時間、何かの行事があれば、「〇〇があるので、20分に帰ってきてください、と言われました。」など事前に職員室で聞いていた内容を児童にも言わせるようにした。この決まったフレーズを言うことは、A児はとても得意で、3児の中でも1番的確に伝えることができる。B児やC児もだいたいのは言えても、「20分に帰ってきなさい、と言われました。」と言うので、20分に帰すと、「次の時間のことでした。」と再び帰ってくることもあった。大切なことを落とさず聞き、伝えるために今後も続けていきたい。

4 おわりに

通常、言語は「聞く」「話す」「読む」「書く」の順に習得していくものだと言われている。実際に、生まれてから約1年ひたすら「聞く」ことにより、「まんま」「ばいばい」など意味のある言葉を「話す」ようになる。そして、相手の話していることに耳を傾け、自分が話すという流れを理解するようになる。私自身もそのように習得してきたから、それを当たり前だと感じていた。しかし、特別支援学級を担任するようになり、自分が当たり前だと感じていたことが、当たり前ではない、と感じるようになった。母国語の言語習得も、学習しないと定着につながらない。耳から得た語句が5000語を超えると、活字からも語句を習得できるようになる、と聞いたことがあるが、耳から入ってきた語句が定着しないので、語彙が増えない。しかし、活字からの方が入りやすい児童もおり、耳から得た語句をいったん文字として見せて、その定着につなげていくようにしている。

児童の特性は一人ひとり違い、それを見極めることに時間を要する。今回、「聞く」ことを妨げる要因を探ったときに、耳だけではなく、頭の中での考え方や手先の不器用さから「聞きながら」の作業ができないことが分かった。支援学級は、児童がより個に応じた指導を受ける場であり、そのために私自身もより個について考え、共に学んでいかななくてはならない。今後も「話す」「聞く」「読む」「書く」などの作業が思うようにできない要因をきちんと理解し、45分という限られた時間の中に何を取り入れるかを適切に判断していきたい。

参考文献等

村上裕成著、和田秀樹監修(2006)

『きくきくドリル—グングン伸びる・脳力を育てる (BOOK1) (シグマベスト)』(文英堂)

NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ 編集(2014)

『ワーキングメモリーとコミュニケーションの基礎を育てる 聞きとりワークシート』

(かもがわ出版)

加藤博之著(2013) 『国語「書く力、考える力」の基礎力アップ編』(明治図書)

斉藤代一著(2018) 『特別支援教育をサポートする 読み書きにつまずく子への国語教材集』

(ナツメ社)

健康な生活態度の育成 ～学級活動「てをぴかぴかにしよう」の学習を通して～

白地小学校 教諭 中川 法子

1 はじめに

本学級の児童（1年生9名）は明るく活発で、休み時間になると運動場に出て、一輪車やおにごっこ等をして、元気いっぱい遊んでいる。また、草花や虫を見つけては楽しくふれ合うことも多い。ただ、休み時間の後、教室に戻ってきた際、手が汚れているにもかかわらず、自分から進んで手を洗うことができていないことがあった。手洗いは、目に見える汚れを取るだけではなく、目に見えない細かい汚れや細菌を除去することにも効果的である。手洗いが十分でないと、汚れの中にあるウイルスや細菌が体内に入り、健康を害することにもつながってしまう。手洗いについての正しい知識を得ることは、今後健康な生活を送る上でも大変重要である。そこで、手洗いについて話し合うとともに手をきれいに洗わなければいけない理由や手をきれいにする方法を知り、児童一人一人が正しい手洗いの習慣を身につけ、健康に気をつけようとする意欲を高めたいと考え、本題材を設定した。

2 研究の目的と方法

はじめに、アンケート結果や映像をもとに、手洗いについて関心を持たせた後、丁寧な手洗いができなかった原因をさぐる。次に、丁寧に手洗いをしないとどんなことが起こるのか考える。その際、手についている細菌の写真を提示したり、養護教諭が専門的な立場から、不十分な手洗いが体に及ぼす影響について説明したりすることで、手洗いの必要性を理解させる。その後、ブラックライトを用いた実験で自分自身の洗い残しを調べさせることにより、目に見えない汚れがあることに気づかせ、手をきれいに洗おうという意欲を持たせる。そして、どうしたら手がきれいになるか、話し合った後、正しい手洗いの方法を学び、実際に手洗いを行う。これらのことから自分が手洗いをするときのめあてを決定させ、それを継続した実践につなげることにより、健康な生活態度を育成する。

3 研究の実際

(1) 題材 「てをぴかぴかにしよう」活動内容 (2)

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

(2) 活動の流れとねらい・評価規準

	活動内容	教科等	ねらい	評価規準
事前の活動	アンケートに答えたり、手洗いの撮影をしたりすることによって、手洗いに関心を持つ。	朝の活動 休み時間	アンケートの実施や手洗いのビデオ撮影をすることによって、手洗いに関心を持たせ、自分の手洗いを振り返らせる。	撮影やアンケートの内容をもとに自分の手洗いについて振り返り関心を持つことができる。 (関心・意欲・態度)

	活動内容	教科等	ねらい	評価規準
本時	手洗いの大切さを知り，正しい手洗いについて話し合い，練習することによって，自分のめあてを決め，実践していかうとする態度を養う。	学級活動 (2) カ	手洗いの大切さに気づき，自分のめあてを決め，実践していかうとする意欲を持たせる。	手洗いについて考えることができる。 (思考・判断・実践) 手洗いの必要性や正しい手洗いの仕方について理解することができる。(知識・理解) 手をきれいに洗おうと考え，自分のめあてを決めることができる。 (思考・判断・実践)
事後の活動	自分が決めためあてを日々の生活の中で実行する。	帰りの会	「ぴかぴか手あらいがんばんりカード」を使用し，めあてが達成できるようにする。	めあてを達成しようと努力することができる。 (思考・判断・実践)

(3) 本時の活動

〔1〕目標

手洗いの大切さに気づき，自分のめあてを決め，実践していかうとする意欲を持たせる。

〔2〕展開

	活動内容	支援の手立て	資料・準備物
つかむ	1 アンケートの結果や映像を見て，話し合いの内容をつかむ。	○アンケートの結果を伝えたり，普段の手洗いの映像を見せたりすることで，本時の意欲づけをする。	アンケート結果 パソコン・スクリーン プロジェクター
さぐる	2 なぜ丁寧な手洗いができなかったのか考える。	○丁寧な手洗いができなかった原因をさぐる。	
見付ける	3 丁寧に手洗いをしないとどんなことが起こるのか考える。 4 丁寧に手洗いするにはどうしたらよいか考え，話し合う。	○手についている細菌の写真を提示することによって，視覚的にとらえさせる。 ○細菌が体内に入ることや病気の発症について説明し，手洗いの必要性を理解させる。	細菌の写真 感染を表すイラスト

	活動内容	支援の手立て	資料・準備物
見 付 け る	・手の洗い残しを調べる。	○ブラックライトを使い、洗い残しを分かりやすく示し、目に見えない汚れがあることに気づかせる。	ブラックライト
	・どうしたら手がきれいに洗えるのか話し合い、手洗いの練習をする。	○気づきを話し合う中から、解決方法を考えられるようにする。	
決 め る	5 自分のめあてを決めて、がんばりカードに書き、発表し合う。	○これから自分が気をつけることを考えて、めあてを書き、発表させることにより、実践への意欲が高められるようにする。	【思考・判断・実践】 (観察) ワークシート
	6 本時の学習を振り返る。	○めあてにそって、互いに励まし合いながら取り組んでいけるように助言する。	

4 結果と考察

・授業のはじめに、今まで丁寧に手洗いができなかった原因をさぐることで、自分自身のこととして課題意識を持って、学習に取り組むことができた。

・養護教諭が、洗い残した汚れの放置によって細菌が増殖する等、専門的な知識を分かりやすく説明することによって、子ども達が、手洗いの必要性を理解することができた。また、その後、ブラックライトを使うことで、一人一人が、自分の洗い残しの部分を視覚的にとらえることができ、それが、自分のめあての決定へとつながっていった。

・学習後、「ぴかぴか手あらいがんばりカード」を活用し、継続した指導を重ねた。その結果、休み時間が終わると、声を掛け合って手洗いする姿が見られるようになった。

・学習後、ひと月ふた月と、時間が経過するにつれて、知識は身につけていても、実践への意欲が低下してしまう様子が見られた。そこで、風邪が流行する12月に、もう一度がんばりカードの実践を行った。自分の手洗いの状態を見直す中で、実践への意欲が高まり、寒い時期ではあったが、手洗いを進んですることができた。



ぴかぴか手あらい がんばりカード

名前()

さ(せん)ん

いつも手のこうまわりをしっかりとあらう。

みんなの健康をいっしょにしよう

14	金	☹️	😊	☹️
17	月	☹️	😊	☹️
18	火	☹️	😊	☹️
19	水	☹️	😊	☹️
20	木	☹️	😊	☹️

ふりかえってみよう

手のこうまわりをしっかりとあらえたかよかったです。あつてあきらめました。

ぴかぴか手あらい がんばりカード

名前()

さ(せん)ん

いつも手のまわりをしっかりとあらう。

みんなの健康をいっしょにしよう

14	金	☹️	😊	☹️
17	月	☹️	😊	☹️
18	火	☹️	😊	☹️
19	水	☹️	😊	☹️
20	木	☹️	😊	☹️

ふりかえってみよう

さ(せん)んをまわってみると、か(か)つね(つね)に、た(た)け(け)じ(じ)、か(か)り(り)つ(つ)め(め)のまわりもあら(あら)え(え)ま(ま)い(い)に(に)。

5 おわりに

健康な生活態度を身につけさせるためには、繰り返し実践の機会をもつことが重要であると感じた。正しい生活習慣をしっかりと身につけさせる為、今後も、機会あるごとに声をかけ、継続した指導を行っていきたい。

研究主題

主体的に活動し、表現できる児童の育成をめざして
～ こども園との交流活動を通して～

櫛生小学校 教諭 岩崎順子

1 はじめに

本学級は、1・2年の複式学級である。こども園の頃からずっと一緒に過ごしているため互いをよく知り、毎日仲良く生活している。

小規模校のため、行事やその他の活動など、全校で行うことが多く、学年のよさを生かしながらか上級生に交じって楽しんで活動することができている。児童は、学級内では、自分の考えが言えたり、自主的に活動したりする場面も見られるが、全校で行う行事や校外学習などでは、自信が持てず自分を表現することは少ない。また、大体の活動の中・高学年が中心となり計画をしていることが多いため、自分たちで何かをしようとする意識は薄い。

そこで、周囲とのふれあいを通して、主体的に生き生きと活動し、表現できる児童の育成をねらい取り組むことにした。

2 研究の方法

- (1) こども園との交流を通して、主体的に計画・活動できる内容を考える。
- (2) 豊かな表現力が育成できるように支援の方法を考える。

3 研究の実際

- (1) 年間計画（活動時期・内容などについての話し合い）（4月）

こども園とは、毎年、4回程度交流をもっている。4月に、児童や園児のことについて意見交換をし、実態を把握した上で活動時期や内容などを話し合い、計画を進めている。園児との交流を通して自分から進んで活動したり、表現したりする力を養い、園児に対する思いやりの心も育ててほしいと考えている。

6月	こども園に出向き交流（ゲーム・劇など）
9月	運動会の競技練習（園児・1・2年の競技内容決め）
10月	ハロウィン（園児が来校し、1・2年とミニゲーム）
11月	園児を小学校に招待して交流（おもちゃランド）

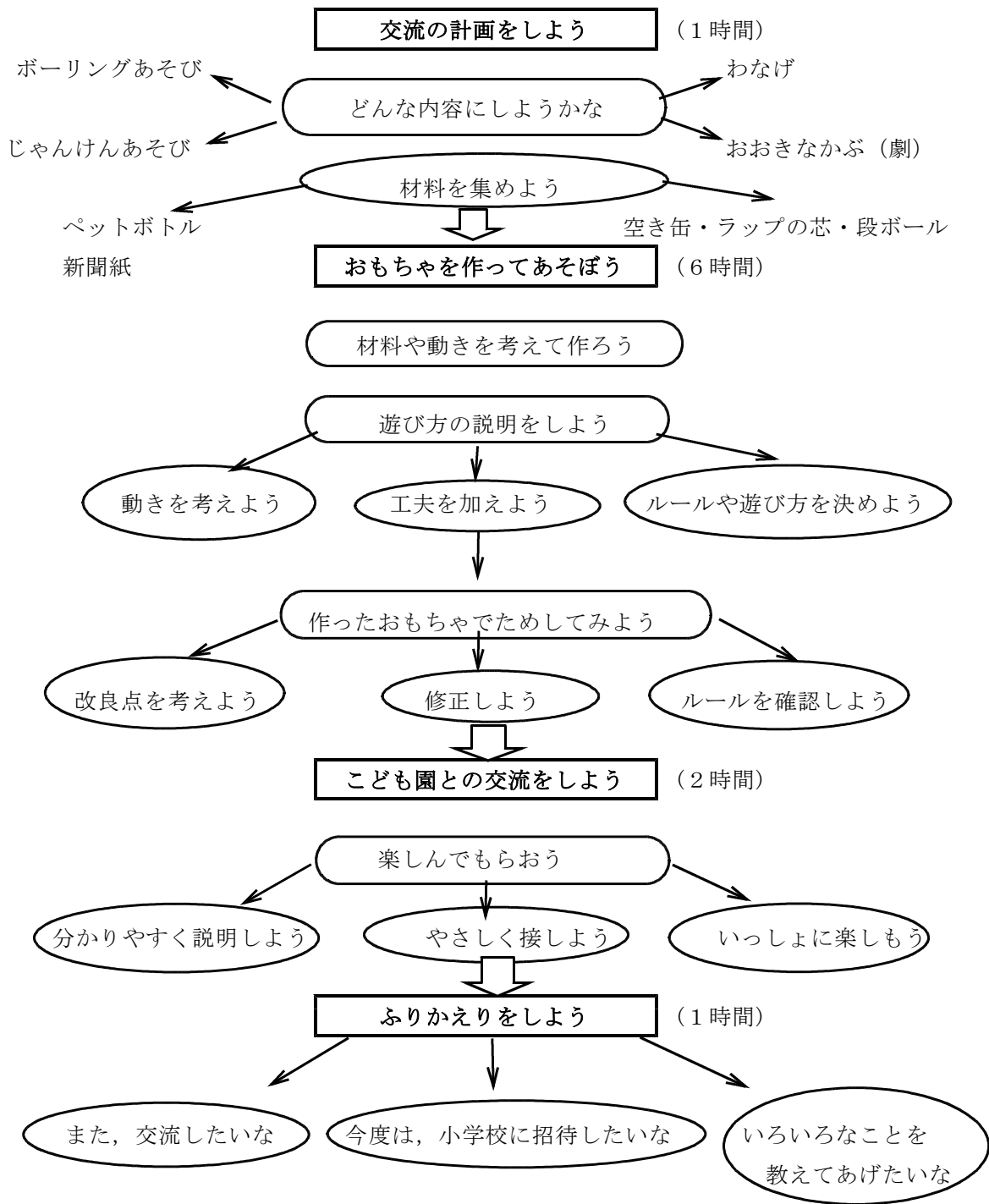
- (2) こども園との交流Ⅰ（6／25）

①単元名 生活科「こども園との交流会をしよう」

②単元について

子どもたちは、おもちゃを作ったり、遊びを考えたりすることは大好きである。本単元では、身の回りにある材料を利用しておもちゃを自分で作る楽しさを十分堪能し、友達や園児と関わりながらみんなで遊ぶ楽しさを実感することができるようにしたい。おもちゃ作りに必要な材料を自分で集めたり、動きを生み出している動力を意識したりして子どもたちが計画的・主体的に取り組むことを目指している。また、作ったおもちゃで遊ぶ中で対話的な活動を取り入れ、おもちゃを改良したり、友達や園児と楽しく遊ぶためのルールを決めたりするなど、豊かな創造力、表現力を育てていきたい。

③学習指導計画・単元構想



④活動記録

最初の計画の段階では、発想が十分でなく迷ったり行き詰まったりもしたが、話し合いを重ね活動していくうちにイメージが広がり、「こんなこともしたい。ここをもっと工夫すれば・・・」と言う発言が多くなった。当日は、輪投げやボーリングのスタート位置や投げる回数などを園児の様子に合わせて進めることができた。

(ボーリング遊び)

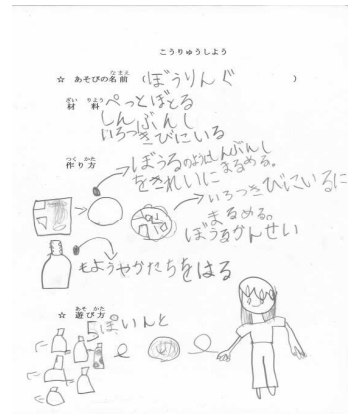


(わなげ遊び)



(活動計画カード)

材料・作り方・遊び方



(遊び方の説明カード)

園児に分かりやすく動きをつけて説明した。

(計画・交流の様子)



(実践後の日記)



あそびのせつめいしよう
ぼーリングのせつめい
このげえもは
ぼうるをもてまゑ
のピンをにおしま
0さいから4さいは
あかいてえぶがうなげ
ください。
ちさいともさいはあ
てえぶがうなげ
ひとりがいづつな
ことができま
たくさんピンを
ましょ

(3) こども園との交流Ⅱ「おもちゃランドへようこそ」(11/30)

生活科「おもちゃランドへようこそ」の単元で、園児を小学校に招待し楽しんだ。自分が考えた遊びだけでなく、周りの環境(飾り付けや看板など)や全体の進行、プレゼントなど、前回には考えられなかった内容を話し合い、自主的に進めようとする態度が見られた。本番では主体的に生き生きと表現活動をし、遊び方の説明をしたり、園児に優しく接したりする姿に成長を感じた。

(遊びの説明)



(カーレース)



(空気でっぼう)



(プレゼント)



4 おわりに

3学期は、園児に絵本や紙芝居などの読み聞かせをしたいという児童の希望もあり計画を進めていきたい。今後の課題として、こども園との交流に限らず地域の人と触れ合う機会を意図的につくり、より主体的で深い学びを実現できるよう活動を充実していきたい。そして、子どもの思いを受けとめながら、地域の人・自然・ものなどに興味・関心をもたせ、学びをより豊かに表現できるように取り組んでいきたいと考えている。

研究主題

将来の進路と学習活動の意義とを結びつけ、自己と社会をつなぎながら、
力強く未来を拓く力を育むキャリア教育
～将来をみすえた持続可能な学習を目指した「学習のしおり」作り～

三加茂中学校 教諭 天竹 雄 紀

1 はじめに

新学習指導要領(平成 29 年告示)において、キャリア教育は、特別活動を要として各教科の特質に応じて充実を図る^{*1}ことが銘記されている。また、学習指導要領解説(特別活動編)において、特別活動の目標(3)では、「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う^{*2}」とあり、特別活動が、キャリア発達の教育的意義を多分に有していることがわかる。さらに解説では続けて、特別活動で育成を目指す資質・能力について「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を重要な要素として位置づけている。^{*3} このことから、特別活動は、生徒ひとり一人が現在及び将来に渡って、社会の形成者として、積極的に社会に参画し、自己の在り方や生き方を考えながら、よりよく生きていくための資質・能力を涵養すること、換言すればキャリア発達の育成を主眼としていることがわかる。このようにキャリア教育は、新学習指導要領において、その位置づけが明確なものとなり、その重要度も増しているといえる。

国際数学・理科教育動向調査(TMSS2015)^{*4}において、我が国の中学校2年生の数学は39カ国中、第5位、理科は第2位と、非常に高い水準に示している。これは、平均得点の推移を見ても上昇傾向にあり、他国と比較しても我が国の学力は高いといえる。しかし、一方で学力調査と同時に実施された質問紙調査の結果を見ると、「数学(理科)を勉強すると、日常生活に役に立つ」や「将来、自分が望む仕事につくために、数学(理科)で良い成績をとる必要がある」については、いずれも国際平均に比べて低い水準にあり^{*5}、いま学んでいる事柄が、日常生活や将来の自己の在り方や生き方と関わっているという意識が希薄であることがわかる。このことから学ぶ意義を明確にして、現在の学習内容が、現在及び将来に渡って生きた力として働くという動機付けになるよう、将来の進路と教育活動の意義をつなげていくキャリア教育は、重要であるといえる。

2 問題の所在と実践の概要

「いまの学び」が将来の自己実現とつながっている、「いまの学び」の延長に将来の自分があるという実感は、いまの学習活動の大きなモチベーションとなる。また、実際、学習活動は、社会生活において生きた力として将来に渡って生かされなければならない。

そこで、最も生徒個々人の個性や特徴が顕著に表れる、「自主学習」(自主学習ノート)の改善を通して、現在の学びを省察し、将来に渡る自己実現につながる学びとは何か、生徒ひとり一人が自己を見つめ、今後の「自主学習」(自主勉ノート)の指針となる「学習のしおり」を作ることで、今後の自己の学びの見通しを立てたい。

3 研究(実践)の方法

本学級の生徒は、いつも和気あいあいとした雰囲気の中で、学習活動に取り組むことができている。しかし、学習意欲や学習に対する向上心は、あまり高いとはいえない。授業は集中して取り組むことができても、予習や復習の徹底や、テストの準備や反省を丁寧に行っていく等、継続的・計画的に「自主学習」を進めていくことに課題を感じる。目的や意図のない、課題を淡々とこなすだけの勉強になったり、あるいは具体的な学習方法が見いだせないまま効率の悪い学習をしていたりと、しっかりとした意思や先の見通しを持った学習ができているとはいえない。一方、生徒を取り巻く社会は、AIの発達等、飛躍的な技術革新により、現在ある仕事そのものの存在が問われていたり、グローバル化の波や働き方の見直しにより雇用形態に著しい変化がおこったりと、将来の見通しは非常に不明瞭であるといえる。「なぜ、勉強するのか?」「いまの勉強が、将来、本当に役に立つのか?」という単純で素朴な問いは、誰しもが一度は持つ問いではないだろうか。それが、生徒の学習状況や生徒を取り巻く社会をみると、いま、生徒一人ひとりにとって、改めて切実な問いとなっていると考える。そこで、自己の将来を見すえた持続可能な「自主学習」を進めていくための、各教科(国語・数学・社会・理科・英語)の「学習のしおり」を自分たちで作成することを目標として設定した。理想の「自主学習ノート」や効果的な学習法について、各教科ごとにプロジェクトチームを組織し、探求的・協働的に作業を進めていく。具体的な手立てとしては、まず、学習アンケート⁶により、いまの自分自身の学習状況の把握に努めること、また、クラス内で自主学習ノートを回覧し、友だち同士で改善点や創意工夫すべき点等を挙げる中で、問題の所在を明らかにした上で、整理・分析を行っていく。整理・分析方法としては、いくつかの観点⁷に沿って整理・分析を行い、今後の自主学習ノートに生かしたり、勉強法の改善や、持続的な学習に資するようまとめ「学習のしおり」に結実させたい。

4 結果と考察



分析後の「学習のしおり」の製作風景



中間報告会風景



中間報告会風景

各観点に沿って分析を試みる中で、教科を横断してどの教科についても共通して有効だと思われる試みと、一方でその教科の特性に応じたその教科独自の学習方法があることがわかった。中間報告会の中で、各プロジェクトチームが、まとめた内容を発表すると、それが生徒間にも周知され、探求活動に深まりをみせた。各観点の分析結果と中間報告会でわかった他教科との

共通点や相違点を総括して、五教科(国語・数学・社会・理科・英語)の教科別「学習のしおり」⁸⁾を作成した。「学習のしおり」をガイドラインとして、「自主学習」に取り組めるようにした。

5 おわりに

今回「自主学習ノート」に焦点化して、よりよい「自主学習ノート」にするための「学習のしおり」を作成するなかで、学習の振り返りと、今後の学習の見通しを持つことができた。生徒ひとり一人の成績の伸び率やその後の学習の進捗状況等、統計的な調査をしたわけではないが、日常の「自主学習ノート」に一定の変化や深まりを見ることはできた。今後は、授業と「自主学習」との理想的な相互補完関係について考察を続け、それが将来の自己実現へとつながりを持ったもの⁹⁾として、生徒ひとり一人が実感できる手立てについて考えていきたい。

*1 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)p.25 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

*2 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)特別活動編 p.11

*3 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)特別活動編 p.12 特別活動において育成を目指す資質・能力や、それらを育成するための学習過程の在り方を整理するに当たっては、これまで目標において示してきた要素や特別活動の特質、教育課程全体において特別活動が果たすべき役割などを勘案して、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つを視点に整理した。これらの三つの視点は、特別活動において育成する資質・能力における重要な要素であり、(4)において述べるように、これらの資質・能力を育成する学習の過程においても重要な意味をもつ。(以下略)

*4http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/detail/1344312.htm

*5 「数学を勉強すると、日常生活に役に立つ」・・・中学校国際平均 84% 中学校 74%
「将来、自分が望む仕事につくために、数学で良い成績をとる必要がある」

・・・中学校国際平均 81% 中学校 65%

「理科を勉強すると、日常生活に役に立つ」・・・中学校国際平均 85% 中学校 62%

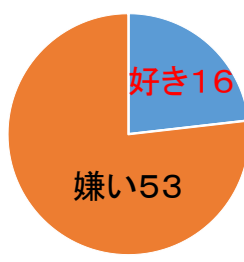
「将来、自分が望む仕事につくために、理科で良い成績をとる必要がある」

・・・中学校国際平均 72% 中学校 51%

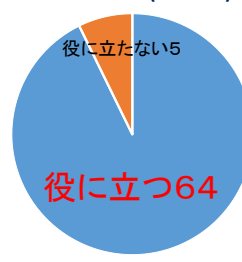
*6 学習アンケートの

一部である。この他、教科ごとの得意・不得意の割合や、各教科の好きな理由・嫌いな理由など、複数の質問項目を設けた。その中で、仙台市教育委員会が職場体験後に実施したアンケート調査(「キャ

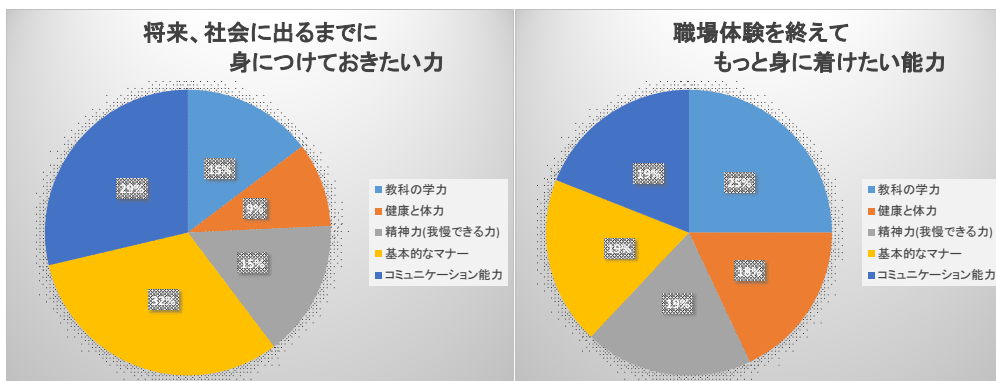
勉強をすることが好き
と答えた人の割合(全体)



将来、就職したとき、いまの
勉強が役に立つと思うと答
えた人の割合(全体)



リア教育って結局何だ?」国立教育政策研究所生徒指導研究センター)との比較等も行い、生徒の現状の把握と、自己理解につなげた。



本校2年生の結果

仙台市教育委員会調査結果

- *7 観点として、「学習アンケートの調査結果」,「教科担当教師へのインタビュー」,「各教科ごとに組織したプロジェクトチームごとに精選した『自主勉ノート』から抽出した良い点」『東大ノート』(『東大合格生のノートは必ず美しい』・『東大合格生の秘密の「勝負ノート』』『東大合格生が小学生だったときのノート』(いずれも文藝春秋刊)の分析)を行った。
- *8 「学習のしおり」については、理想とすべき「自主学习ノート」のひな形を、各教科二種類作成し、それに注意点や特徴を付箋等を用いて添付した。作成した「自主学习ノート」は、編集・整理され学習の振り返りができ、あとから要点やキーワードが簡潔に見返せる「まとめるノート」、知識の定着を図り、より確実に覚えられるように工夫された「覚えるノート」である。
- *9 各教科ごとの「キャリア・パスポート」の作成は可能なかどうか、考察したいと考える。

「従事する」から「つかさどる」へ

～学校事務グループでの取り組みと「つかさどる」ための挑戦～

井川中学校 主事 三好佐知

1 はじめに

平成 29 年 4 月 1 日。私が採用された日と同日に、改正学校教育法が施行され、事務職員の職務内容が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」という規定に変更された。この改正により、事務職員としての知識や経験を学校運営に活かしていくことが求められるようになった。

徳島県からは「公立小・中学校事務職員の標準職務の改正について」が通知された。これは平成 8 年 3 月 14 日付の教義第 180 号の通知を改正したものであり、その狙いは事務職員各自が持つ能力を効果的に発揮でき、専門性に基づく「チームとしての学校」を実現するためとされている。また、公立小・中学校事務職員の標準的職務一覧表という形で、人事や管財などの区分ごとに職務内容が具体的に示された。この通知で特に注目する点は区分の中に『協働』が新たに加えられたことだ。協働とは事務グループでの活動を指す。

しかし、知識や経験を深めることが求められているとは言っても学校に一人配置の学校事務職員にとって難しい。学校事務グループは「事務をつかさどる」ために必要な知識を得、実践する場所だと思う。本稿では事務グループにおける三好市の取り組み、そして「つかさどる」ための一歩として校内で挑戦した実践について報告していく。

2 学校事務グループとは

学校事務グループは主に 1～複数中学校区の学校事務職員で編成されたグループのことであり、グループリーダーを中心に地域の実情に合った活動を行っている。その役割について「学校事務ブランドデザイン 2.1 Ver.3」では次のように定義されている。

- (1) グループ内のすべての学校に質の高い均等な学校事務を提供する。
- (2) グループ内のすべての学校の学校経営に積極的に参画し、トータルプロデューサーとして複数の経験とノウハウを活かす。
- (3) 県教委・地教委、関係諸機関、地域との連携がますます必要となっている今、積極的につなげる新しい役割を担う。

この役割を果たすため、三好市内では祖谷・山城グループ、池田グループ、三野・井川グループの 3 つのグループ、東みよし町では東みよし町グループが活動している。

3 三好市事務グループでの取り組み

他郡市の事務職員と話す中で、三好市の事務グループは他と比べても特に活発に活動していることが分かった。三好市は主事や臨時職員など経験が浅い職員が多く在籍しているため、市内の 3 つのグループが合同で活動している。

① 学校事務グループ研修

事務グループ研修を月に2回行っている。内容は後述する書類の相互チェックや、主任主事級以上の職員が持ち回りで行う実務研修である。研修内容としては、就学援助事務や年末調整に関することなどその時期に応じた事務内容についての研修が主である。事務処理を行う上で手順や注意点を学習することのできる大切な場となっている。また、三好市の学校事務職員が一同に会するので、事務処理についての様々内容について共通理解をする場所になっている。



② 書類の相互チェック

月例報告等の給与業務に関することや、旅行命令簿の照合などの相互チェックをしている。チェックをする際には、経験年数が浅い職員と豊富な職員がペアとなって行っている。相互チェックを行うことで、注意すべき箇所や書類の作成方法について実物を見ながら指導を受けることができるほか、自校とは異なる形態の学校の書類を確認する中で幅広い知識を得ることができ、異動した際の不安が少なくなるように思う。

また、夏季休業日中には、希望があった学校へ出向いて耐火金庫や書庫の書類整理や出勤簿の確認を行っている。今年度は井川中学校も希望を出し、廃棄書類の選別を行った。作業は半日ばかりとなり、廃棄書類がゴミ袋20袋ほどにのぼった。

③ 学校事務様式集の作成と改訂

三好郡市事務職員部会では、毎年、学校事務様式集の新様式の追加作成及び改訂作業を行っている。学校事務様式集を利用することで一から書類を作成する必要がなく、作業が効率化され、事務処理をスムーズに行うことができている。

4 学校財務からはじめる一歩

事務をつかさどる。そうは言われても採用2年目でようやく仕事に慣れてきたばかりの私が学校運営のために何ができるだろうか。そう考えた中でヒントとなったのが学校財務に関する研修だ。市の財務に関することや市会計、保護者負担金をいかに減らすかという内容の講演を聴く中で、昨年度消耗品費が不足しそうだったことを思い出したのだ。そこで、消耗品費を効率的に使用するための取り組みを行った。

① 学校財務クイズ

生徒が学校財務に興味を持ってくれるきっかけになればと11月1日～7日の「学校財務ウィーク」中に学校のお金に関するクイズを掲示した。「チョーク一本の値段はいくら?」、「一年間の電気代はいくら?」など校内の備品や電気代などの価格当てクイズを実施し、一番驚いた項目にシールを貼ってもらうようにした。参加型のクイズとしたことで、多くの生徒が足を止め掲示を見てくれた。生徒や教員から「思ったよりもお金がかかっているんですね。」、「大事にものを使おうと思いました。」などの感想をもらうこと



ができた。

② リサイクル BOX の設置

消耗品棚を確認してみると、規格がそろっておらず、本体があるのに詰め替えがないことや、それとは逆に本体がなく、詰め替え用のものが余っているボールペンがたくさんあった。そこで、消耗品を購入する際に規格を統一し、詰め替えタイプを購入するよう努めると共に、リサイクル BOX を設置した。回収されたボールペンは、学校事務職員が詰め替えを行い、再び消耗品棚へと戻される仕組みだ。このボックスを設置したことで、リサイクルタイプのボールペンを廃棄してしまうことが減り、替芯だけを購入することで価格を抑えることができた。この取り組みによって 1 年の間に 32 本のボールペンを回収することができ、使い切りタイプのボールペンを使用したときに比べておよそ 1,200 円の節約となった。

③ 消耗品の整理整頓

消耗品の置き場所が分からないと言われることや、まだ在庫のあるはずの消耗品が見つからずに発注するといった問題の解消のため、棚の整理を行った。使用頻度の高い消耗品から順に生徒の目線に近い場所に箱に入れて置き、見つけやすいように大きめのフォントサイズのラベルを貼った。ラベルの横には消耗品の写真やイラストをつけ、中に何が入っているのか一目でわかるように工夫した。

5 成果と課題

学校事務グループでの活動を通じて、学校事務職員としての職務に関する知識を深めることができたと共に、効率的でより正確な事務処理を行うことができた。また、学校財務という観点から消耗品費の削減に取り組んだことで、昨年度と比較してより有効な資金運用が行えるようになった。

6 おわりに

「チーム学校」として働く中で、「協働」というのは大切なテーマとなってくる。それは学校事務グループとしての活動でも、校内の教職員間でも言えることである。「従事する」から「つかさどる」に変化していく中で、事務グループでの活動を中心に専門性を身につけ、学んだことを活かし、学校運営の一端を担えるよう校内の問題解決に主体的に取り組んでいくように努めていきたい。

参考文献

徳島県公立学校事務職員研究会『学校事務グランドデザイン 21Ver.3』2015.7.30

藤原文雄『事務職員の職務が「従事する」から「つかさどる」へ』2017.8.28

平成30年度の教育研修・研究事業報告

1 研究主題

『変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成』

2 事業

(1) 調査研究

- ア 教育課程の研究
- イ 複式の特性を生かした学習指導方法の研究
- ウ 情報教育についての研究
- エ 地域の教育力を生かした教育活動の研究
- オ 生徒指導にかかわる諸問題の調査研究
- カ 各種研究会への参加と研究物の収集
- キ 購入図書・DVD等の紹介

(2) 各種研究会及び研修会の開催・共催

- ア 教育研究推進協議会・教育研究所協力委員会
 - 第1回 6月 5日(火)
 - 第2回 2月26日(火)
- イ 情報教育研修会(小教研情報教育部会と共催)
 - 8月17日(金) 夏季研修会(地域交流センター「はくあい」)
 - 10月17日(水) 研修会 コンピュータ作品審査等(三好教育センター)
- ウ 複式教育研修会(小教研へき地・複式部会と共催)
 - 研究大会は隔年開催のため、本年度はなし
- エ 人権教育研究会(三好郡市学校人権教育研究大会後援)
 - 11月 7日(水) 就学前・小学校分科会(加茂小学校)
 - 11月16日(金) 中学校分科会(三野中学校)
 - 11月29日(木) 高等学校・特別支援学校分科会(徳島県立池田支援学校)
- オ 新任管理職研修 参加者 8名
 - 4月23日(月)
 - 「管理職の心得」
 - 「学校事務について」 講師 三好郡市事務室長 2名
- カ 学校運営研修会(教頭・中堅教員研修会) 参加者25名
 - 開催日と講師
 - 6月 6日(水) 講義1 藤本 一夫 所長(三好教育研究所)
 - 19日(火) 講義2 竹内 明裕 教育長
 - 26日(火) 講義3 小谷 千恵 前事務室長(池田中学校)
 - 7月 9日(月) 講義4 小笠原 智 校長(三野中学校)
 - 25日(水) 講義5 伊丹 賢治 校長(箸蔵小学校)
 - 講義6 //
 - 8月 2日(木) 講義7 西原 芳人 (前貞光中学校長)
 - 講義8 //

※オ～カ「三好教育振興協議会」との連携による事業

(3) 研究委嘱、研究協力校(園)への指導・助成

ア 研究発表校

昼間小学校・三好教育研究所

イ 研究協力校・園（31年度発表校）

白地小学校・東祖谷中学校

ウ 委嘱研究員

幼稚園（第3ブロック） 白地幼稚園 山本 眞由美 教諭

小学校 1区 昼間小学校 曾我部 悦嗣 教諭

2区 玉地小学校 大西 利江子 教諭

3区 白地小学校 中川 法子 教諭

4区 櫛生小学校 岩崎 順子 教諭

中学校 1区 三加茂中学校 天竹 雄紀 教諭

2区 井川中学校 三好 佐知 主事

(4) 各研究会，団体等との協力

ア 三好教育会

イ 三好郡・市小学校教育研究会，三好郡・市中学校教育研究会

ウ 三好郡・市学校人権教育研究協議会

エ 三好郡・市各幼稚園・小学校・中学校

オ 中・四国教育研究所連盟

カ その他教育関係諸機関

3 研究成果の発表及びその普及

(1) 三好教育研究発表会（台風20号接近のため中止）

日 時 平成30年 8月23日（木）12：50～16：40

会 場 三好市池田総合体育館 メインアリーナ

○研究発表

・昼間小学校 研究主題

自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度の育成

～実践的な安全教育の取り組みを通して～

発表者 久原 有里 教諭

・三好教育研究所 研究主題

生徒の意欲関心を高め，豊かな感性を育成する主体的な学びについて

～美術科におけるデジタル教材の作成と活用を通して～

発表者 宮成 万寿美 教諭（現三野中学校）

○講演

演 題 「本気で進める学校の働き方改革」

～なぜ必要か，何からどう進めるのか～

講 師 教育研究家 中教審「学校における働き方改革特別部会」委員

妹尾 昌俊 氏

(2) 研究紀要（59集）の発行と研究所報（第99号）の発行（CDによる）

各学校・園に配布，各研究機関に送付

(3) ホームページ等による広報活動

(4) 県内外教育研究所への「研究紀要・研究所報」の送付

(5) 研究員による研究成果のまとめと報告（県教育委員会へ提出）

歴代委嘱研究員一覧（平成元年～）

幼稚園・小学校

年度	幼稚園	小学校1区	小学校2区	小学校3区	小学校4区	小学校5区
元	国見マチ子（絵堂幼）	藤本政義（王地小）	天竹勉（屋間小）	吉岡弘恵（池田小）	森勝正（河内小）	森本義博（櫛生小）
	斎藤光子（三野幼）	坂野町子（三庄小）	前川順子（辻小）	久保徹（箸蔵小）	小笠健二（大野小）	和田初枝（落合小）
2	国見マチ子（絵堂幼）	藤本政義（王地小）	天竹勉（屋間小）	吉岡弘恵（池田小）	森勝正（河内小）	森本義博（櫛生小）
	斎藤光子（三野幼）	坂野町子（三庄小）	前川順子（辻小）	久保徹（箸蔵小）	小笠健二（大野小）	和田初枝（落合小）
3	山口悦子（増川幼）	小笠松美（王地小）	藤野圭一（足代小）	武内隆史（出合小）	竹野啓治（大和小）	細川文男（櫛生小）
	横田嘉代子（屋間幼）	大瀧和彦（加茂小）	為実敬子（西井川小）	真鍋宏実（馬場小）	篠原聡（下名小）	松村直也（和田小）
4	佐々木隆子（東山幼）	大瀧和彦（加茂小）	為実敬子（西井川小）	武内隆史（出合小）	竹野啓治（大和小）	松村直也（和田小）
	井上淳子（足代幼）	小笠松美（王地小）	藤野圭一（足代小）	真鍋宏実（馬場小）	篠原聡（下名小）	細川文男（櫛生小）
5	岡久尚子（白地幼）	辻宏明（芝生小）	中川糸子（足代小）	坂本武彦（白地小）	田中敬子（上名小）	谷恒二（吾橋小）
	矢野聡子（出合幼）	田岡茂樹（加茂小）	齋藤孝（西井川小）	伊丹賢治（三縄小）	志磨昭子（大和小）	大塚一志（栃之瀬小）
6	岡久尚子（白地幼）	辻宏明（芝生小）	中川糸子（足代小）	坂本武彦（白地小）	志磨昭子（大和小）	大瀧和彦（吾橋小）
	矢野聡子（出合幼）	田岡茂樹（加茂小）	齋藤孝（西井川小）	伊丹賢治（三縄小）	田中敬子（上名小）	大塚一志（栃之瀬小）
7	大久保珠美（池田幼）	松田徳子（王地小）	真鍋宏実（屋間小）	中川法子（池田小）	井後辰哉（政友小）	濱口久弥（吾橋小）
	國金砂恵子（野呂内幼）	中川斉史（三庄小）	土井清子（井内小）	川人成子（三縄小）	峯川郁代（山城小）	森本誠司（落合小）
8	國金砂恵子（川崎幼）	松田徳子（王地小）	真鍋宏実（屋間小）	中川法子（池田小）	井後辰哉（政友小）	濱口久弥（吾橋小）
	大久保珠美（池田幼）	中川斉史（三庄小）	土井清子（井内小）	川人成子（三縄小）	峯川郁代（山城小）	森本誠司（落合小）
9	岡尾千恵（下名幼）	原敏二（三庄小）	中川貴史（屋間小）	篠原晃代（馬路小）	小笠原誠（平野小）	徳善之浩（名頃小）
10	木村恵美子（西岡幼）	野町孝英（芝生小）	石井文子（辻小）	島田晴代（野呂内小）	篠原義正（河内小）	岩崎順子（善徳小）
11	三木香代（西庄幼）	森北直樹（加茂小）	中村瑞穂（足代小）	山下史記（佐野小）	河野通之（大野小）	向井ひろみ（菅生小）
12	渡辺千枝（三野幼）	平田公彦（太刀野山小）	小角昌美（西井川小）	三好美智代（西山小）	谷口政代（下名小）	品川知美（櫛生小）
13	岡本久美（西井川幼）	三橋洋子（西庄小）	今川仁史（東山小）	生藤元（箸蔵小）	三橋泰（落合小）	
14	大西恒子（井内幼）	喜多とよみ（王地小）	細谷加代子（井内小）	近藤直美（池田小）	瀧下光子（西宇小）	
15	山中あけみ（箸蔵幼）	樋口隆則（絵堂小）	加藤公夫（屋間小）	近藤明美（三縄小）	松浦理恵（善徳小）	
16	新居利枝（馬路幼）	松代容子（芝生小）	福田ミカ（辻小）	松下寛興（白地小）	井上清隆（栃之瀬小）	
17	古井智恵子（善徳幼）	武田淳子（三庄小）	佐藤仁美（足代小）	向井ひろみ（馬路小）	山中祐二（大野小）	
18	谷本紀子（大野幼）	平尾佐知子（加茂小）	北川ひとみ（王地小）	渡邊真弓（川崎小）	岡本悟（櫛生小）	
19	佐藤重美（東山幼）	平野貴志（東山小）	豊田昌弘（西井川小）	木内晃（佐野小）	猪子研司（和田小）	
20	鳥首こずえ（加茂幼）	邊見明美（絵堂小）	井原理恵（芝生小）	宮本真吾（西山小）	河野恵子（山城小）	
21	大西照子（西井川幼）	和田光司（西庄小）	小角昌美（井内小）	中妻稔子（箸蔵小）	森祐大（吾橋小）	
22	釈子育香（井内幼）	森幸子（屋間小）	松本珠実（王地小）	永山睦子（池田小）	清重正俊（栃之瀬小）	
23	城尾春菜（池田幼）	小角聡志（加茂小）	平尾昌彦（辻小）	安藤久子（三縄小）	平岡千佳（政友小）	
24	元木真砂代（池田幼）	近藤博美（三庄小）	園尾淑子（芝生小）	神谷美樹（白地小）	岩崎真人（櫛生小）	
25	石井やよい（屋間幼）	大久保智江（足代小）	中瀧由紀（井内小）	石丸美穂（馬路小）	福田浩司（東祖谷小）	
26	田岡あけみ（三庄幼）	大西三千代（屋間小）	木村栄治（王地小）	瀧本恭代（川崎小）	喜多芳恵（下名小）	
27	真鍋友子（辻幼）	大西勇貴（加茂小）	藤川美香（西井川小）	新藤茂美（箸蔵小）	長岡鷹太（吾橋小）	
28	加藤由美（辻幼）	木村麻紀子（三庄小）	玉木恵子（芝生小）	上浦大輔（池田小）	瀧下光子（政友小）	
29	岡尾千恵（山城幼）	岡田直人（足代小）	岡慎太郎（辻小）	松本美穂（三縄小）	竹内友梨（山城小）	
30	山本真由美（白地幼）	曾我部悦嗣（屋間小）	大西利江子（王地小）	中川法子（白地小）	岩崎順子（櫛生小）	

歴代委嘱研究員一覧（平成元年～）

中学校

年度	中学校1区	中学校2区	中学校3区	中学校4区	中学校5区
元	坂部栄子（三野中）	頭師正明（井川中）	小島治子（池田一中）	大畑知（大野中）	住友恵子（西祖谷中）
2	坂部栄子（三野中）	頭師正明（井川中）	小島治子（池田一中）	大畑知（大野中）	住友恵子（西祖谷中）
3	新居克佳（三加茂中）	嵯峨久明（三好中）	西岡ひとみ（池田中）	佐藤英一郎（山城中）	島本富美子（東祖谷中）
4	新居克佳（三加茂中）	嵯峨久明（三好中）	西岡ひとみ（池田中）	佐藤英一郎（山城中）	玉木富美子（東祖谷中）
5	尾関英知（三野中）	井川秀樹（井川中）	入江宏明（池田一中）	西浦陽子（大野中）	三橋和博（西祖谷中）
6	尾関英知（三野中）	井川秀樹（井川中）	入江宏明（池田一中）	西浦陽子（大野中）	三橋和博（西祖谷中）
7	上田尚（三野中）	元木康代（三好中）	村上義昭（池田中）	山田泰弘（山城中）	邊見隆史（東祖谷中）
8	上田尚（三野中）	元木康代（三好中）	村上義昭（池田中）	山田泰弘（山城中）	邊見隆史（東祖谷中）
9	三好康彦（三加茂中）	国友博司（井川中）	伊丹尚子（池田一中）	大西恭司（大野中）	島本清（西祖谷中）
10	青山貴幸（三野中）	上田美恵（三好中）	坂本浩江（池田中）	田村裕（山城中）	大谷一幸（東祖谷中）
11	平尾治美（三加茂中）	藤本恒幸（井川中）	尾崎真紀（池田一中）	新見哲也（大野中）	大倉俊之（西祖谷中）
12	宮成万寿美（三野中）	川人勝久（三好中）	内田公生（池田中）	白井正道（山城中）	宮成誠樹（東祖谷中）
13	玉木富美子（三加茂中）	川人祐子（井川中）	西岡ひとみ（池田一中）	板東祥子（西祖谷中）	
14	辺見俊二（三野中）	入江宏明（三好中）	川人恵美（池田中）	根津道子（東祖谷中）	
15	坂部公章（三加茂中）	山内幸子（井川中）	高田和枝（池田一中）	大谷一幸（山城中）	
16	村上義昭（三野中）	野田圭祐（三好中）	峰友真弓（池田一中）	安田恵（西祖谷中）	
17	玉木利典（三加茂中）	立花久（井川中）	久保喜昭（池田中）	岡本博一（東祖谷中）	
18	木藤和恵（三好中）	宮浦理恵（三野中）	沖原真紀（西祖谷中）	丸岡美枝（山城中）	
19	藤本智恵（三加茂中）	大石さえ子（井川中）	中川浩幸（池田一中）	ナサーニョ・デネヒー （東祖谷中）	
20	垂水恵子（三好中）	窪田和弘（三野中）			
21			尾嶋麻子（池田中）	山口雄三（山城中）	
22	渡辺仁（三加茂中）	近藤幸（井川中）			
23			常村淳（西祖谷中）	山口義明（東祖谷中）	
24	片山徹（三好中）	小出真理子（三野中）			
25			細川誠治（池田中）	峰友真弓（山城中）	
26	佐藤篤史（三加茂中）	伊藤憲志（井川中）			
27			芳川未弥（西祖谷中）	岡田祐佳（東祖谷中）	
28	石崎雄一（三好中）	石橋洋平（三野中）			
29			平尾昌彦（池田中）	西昭弘（山城中）	
30	天竹雄紀（三加茂中）	三好佐知（井川中）			